



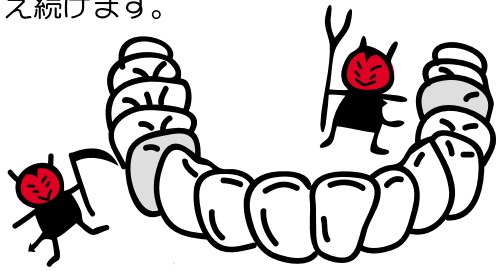
## “子どもの虫歯” そのままにいませんか？

子どもの歯(乳歯)はいずれ生え変わるものなので、虫歯になっても“痛み”が無ければ放っておいても問題はないような気がします…



でも実は、**乳歯の虫歯は生え変わる“永久歯”にも大きく影響してくるのです。**

まず、乳歯の虫歯をそのままにしておくと、お口の中で“虫歯菌”が増え続けます。



運よく、痛みもないままポロポロ乳歯が抜けたとしても、お口の中の虫歯菌は無くならないので、次に生える永久歯は虫歯菌の多い“汚れた環境”の中に生えてくることになってしまいます。また、ひどい虫歯で乳歯が膿んだまま抜けたりすると、そのあとに“弱い永久歯”が生えてくることになり、こうして生えてきたこの弱い永久歯は、“糖分に弱い”と

いうだけでなく、ストレスなどが原因で“唾液の量”が減ってしまったような時でも、いち早くダメージを受けてしまうのです。

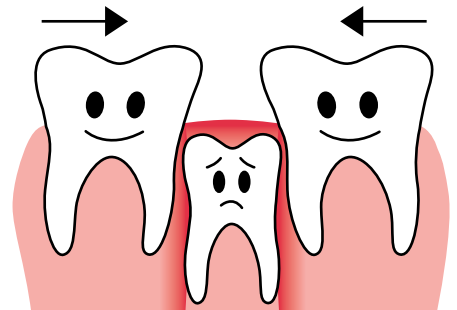
こういった理由から、**良い環境で永久歯を迎えるためには、乳歯の虫歯は必ず治しておく必要があるのです。**

## 乳歯の虫歯は“将来の歯並び”にも影響してしまいます。

乳歯の虫歯でもうひとつ忘れてならないのは“**歯並びへの影響**”です。

乳歯が虫歯になって抜けてしまう、あるいは、あまりにひどい虫歯なら抜いてしまうこともあるでしょう。そういった場合、生え変わる永久歯の準備がまだできていないため、乳歯と乳歯の間に早々と“**空きスペース**”ができてしまいます。

もちろん、いずれここには永久歯が生えてくるのですが、生えるまでの間にこの“空きスペース”が長い間あると、**両隣の歯が自然と寄ってきてしまい、本来永久歯が出てくる予定だったスペースが狭くなってしま**うのです。



そうすると、永久歯は本来よりも狭いスペースに生えることになるので、結果的に曲がって生えてきたり、重なった形で生えてきてしまい、こうなってから綺麗な歯並びに戻そうと思うと、“**歯列矯正**”などの治療が必要になってしまいます。

また、歯並びが悪いと“**食べカス**”や“**歯垢**”が歯と歯の間に残りやすくなるので、結局、また虫歯になりやすくなってしまいます。

“**大人になっても丈夫で綺麗な歯**”を目指すなら、乳歯の時から“**予防**”と“**治療**”をしっかり行うことが大切なのです。